

MACF 礼拝説教要旨

2020.09.27

「自分の死から今を見る」

ローマの信徒への手紙

7:22 「内なる人」としては神の律法を喜んでいますが、

7:23 わたしの五体にはもう一つの法則があって心の法則と戦い、わたしを、五体の内にある罪の法則のとりこにしているのが分かります。

7:24 わたしはなんと惨めな人間なのでしょう。死に定められたこの体から、だれがわたしを救ってくれるでしょうか。

7:25 わたしたちの主イエス・キリストを通して神に感謝いたします。このように、わたし自身は心では神の律法に仕えています、肉では罪の法則に仕えているのです。

8:1 従って、今や、キリスト・イエスに結ばれている者は、罪に定められることはありません。

8:2 キリスト・イエスによって命をもたらす霊の法則が、罪と死との法則からあなたを解放したからです。

8:3 肉の弱さのために律法がなしえなかったことを、神はしてくださったのです。つまり、罪を取り除くために御子を罪深い肉と同じ姿でこの世に送り、その肉において罪を罪として処断されたのです。

8:4 それは、肉ではなく霊に従って歩むわたしたちの内に、律法の要求が満たされるためでした。

8:5 肉に従って歩む者は、肉に属することを考え、霊に従って歩む者は、霊に属することを考えます。

8:6 肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。

8:7 なぜなら、肉の思いに従う者は、神に敵対しており、神の律法に従っていないからです。従えないのです。

8:8 肉の支配下にある者は、神に喜ばれるはずがありません。

8:9 神の霊があなたがたの内に宿っているかぎり、あなたがたは、肉ではなく霊の支配下にいます。キリストの霊を持たない者は、キリストに属していません。

8:10 キリストがあなたがたの内におられるならば、体は罪によって死んでいても、“霊”は義によって命となっています。

8:11 もし、イエスを死者の中から復活させた方の霊が、あなたがたの内に宿っているなら、キリストを死者の中から復活させた方は、あなたがたの内に宿っているその霊によって、あなたがたの死ぬはずの体をも生かしてくださるでしょう。

+++++

#### 1) 内なる戦い

私たちの内側には常に「肉」と「霊」の戦いが存在します。

イエス様を信じたからと言って、すぐに聖なる存在として頭の上に光が照るわけではありませんし、自分の生活や性格が一気に輝くものとして変えられるわけでもないと思います。

何歳になっても、どこでどう頑張っても「内なる戦い」（神を喜ばずに自分の欲を願うという傾向）は継続するように思います。

「自我」といいますが、それはじつにしづとく、私たちにまわりつき、常に「競争」「言い訳」「巻き込まれ」「挫折感」

を生み出し、神を信じていても何にも良いことなどないのではないかとさえ叫びたくなるような現実を突きつけられます。

それは、どんな人であっても真面目に人生を考えている人には起こっているはずで

#### 2) キリストの死と自らの死

私たちが「生きている生身の体といのち」から自分のこれからを考え、死に向かう自分を考えると絶望的に

なってきます。それほどの成長や成熟は期待できないからです。それは、まさに「肉の法則」に縛られた生き方です。

ところが、キリストが私たちを愛し、私たちのために「私の死」を死なれたということを土台にして、そのお方の

命の中に生かされている自分から、現在の肉体にある自分を見直すと、けなげに生きている自分の姿が見えてきます。

今の肉体にある自分に固執し、そこから自分の現在、将来を見ていくと、絶望と死、もしくは「妄想的な高慢」にぶつかります。

ところが、キリストの死に重ねられた自分を認め、そこから今を見ていくと、ある意味で肉の法則から解放されて

「キリストに励まされ、キリストに守られて生きている自分」を発見するのです。

それを実体験として生きられれば、なんと楽なこと、幸せな、そして心が軽くなる生き方になるでしょう。

### 3) キリストの命（支配）の中にある自分

パウロはコロサイの信徒たちにこう書きました。

「1:13 御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。」

また同じ書の3章には

「3:3 あなたがたは死んだのであって、あなたがたの命は、キリストと共に神の内に隠されているのです。」と書いています。

まさに、ここに自分をしっかり立たせて今を見る姿勢こそ大切なのです。

ここに、絶望に終わることのない生き方の土台が存在します。

### 4) 優しく自分を見つめ、体操と霊操を大切に生きる

今までは、ほとんどすべて「自力で」「見栄と頑張り」と義務感で」「言い訳をしながら」「巻き込まれた感を持ちながら」

がんばることでより良い信徒、より良い人間になれると考えたきた私たちにとって、聖書は全く別の道を示しています。

あなたは「キリストと一緒に死んだのだ。そして聖霊によってキリストの中に生かされているのだ」それを土台に

今を見つめ直しなさいと勧められているのです。

聖書を読むことは、そのためにとても大切な土台作りになります。

礼拝はそういう生き方のための後押しをしてくれるでしょう。

今のあなたは、出来が良くても悪くても、それが問題ではないのです。問題は「キリストと一緒に死に、キリストの

霊によっていのちが保たれているのだ」ということを認めているかどうか、意識しているかどうかです。

心の糧が必要です。

それは肉体のための体操と同様に、いいえ、それよりももう少し真剣に時間をかけてなされる必要があります。

肉体のためには体操。霊のためには「霊操」です。

みことばを読んで教えられ、自らの生き方の素材にすることは、まさに霊操の土台になります。

義務ではなく、喜んで生きることができるための大切に気づきがここにあります。